

jakka duxuni

サハリン少数民族ウイルタと「出会う」



ジャツカ・ドフニ 大切なものを収める家

2024.3.16 Sat. — 8.25 Sun.

10:30 - 19:30 入館無料

高島屋史料館TOKYO 4階展示室 休館：月・火曜（祝日の場合は開館）、8月21日（全館休業）

主催：高島屋史料館TOKYO | 監修・協力：北海道立北方民族博物館 | グラフィックデザイン：原田祐馬・岸木麻理子 (UMA/design farm)

展示デザイン：榮家志保・橋本亜沙美 (EIKA studio) | 担当学芸員：海老名熱実 (高島屋史料館TOKYO)

高島屋史料館
TOKYO

ジャツカ・ドフニ

かつて、北海道のオホーツク海に面した網走の地に「ジャツカ・ドフニ」と呼ばれたサハリン少数民族の資料館がありました。「ジャツカ・ドフニ」とは、ウイльта語で「大切なものを収める家」を意味し、ウイльтаを中心に、ニブフ、樺太アイヌといった、サハリンに暮らした少数民族の生活文化を伝えた稀有な私設資料館です。この「ジャツカ・ドフニ」は2012年、多くの人に惜しまれながら約35年にわたる活動に終止符を打ちます。その後、そこで所蔵されていた資料の全てが、北海道立北方民族博物館に引き継がれました。本展は、この「ジャツカ・ドフニ」の所蔵資料をまとめて東京で展示公開するはじめての機会となります。

1905年、それまでロシア領だったサハリン島は、日露戦争後のポーツマス条約締結により、北緯50度以南が日本領と定められます。このことは、サハリン島に暮らした少数民族に大きな影響を与え、それまでの生活慣習を一変させました。また、サハリン少数民族はアジア・太平洋戦争にも巻き込まれ、なかには終戦後にシベリアへ抑留される人もいました。さらには、さまざまな事情から、住み慣れた地を離れて日本への移住を決断せざるを得ない人もいたのです。「ジャツカ・ドフニ」設立に尽力したウイльтаのゲンダーヌ(日本名:北川源太郎)さんはその一人です。このようにウイльтаをはじめとするサハリン少数民族は、自らの意思とは無関係に、近代が設定した国境や国籍といった枠組みの中に取り込まれてきました。しかし、そうしたサハリン少数民族の歴史や文化が、今日、十分に知られているとは言い難いでしょう。

本展は、前述のゲンダーヌさんが初代館長として残した「ジャツカ・ドフニ」を通して、ウイльтаとその文化に出会う場にしたいと思います。そして、ウイльтаと「出会う」ことが、他者あるいは自らの文化に対してより一層理解を深め、さらに、私たちが生きる世界が多角的で、複雑な交差性のもとにあるということを再認識する一助となれば幸いです。

*「ジャツカ・ドフニ」の正式名称は北方少数民族資料館ジャツカ・ドフニです。

北海道立北方民族博物館所蔵
撮影 城野誠治



関連イベントとして、ウイльта刺繍ワークショップやトークイベントの開催を予定しています。詳細が決定次第、当館HPでご案内します(イベント内容が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください)。



写真展示 新田樹「Sakhalin (仮称)」 会期中、通常是非公開の高島屋史料館 TOKYO 5階旧貴賓室において、写真家 新田樹 (第47回木村伊兵衛写真賞、第31回林忠彦賞) の写真展を開催予定です。詳細が決定次第、当館HPでご案内します。

高島屋史料館 TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1
日本橋高島屋S.C. 本館4・5階



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/>
X shiryokantokyo @ takashimayashiryokantokyo

アクセス
・JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分
・東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結
・都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分

※駐車場は大変混雑しております。お車の入出庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

